

# 耳鼻咽喉科学

## 1 構成員

	平成16年3月31日現在
教授	1人
助教授	1人
講師（うち病院籍）	2人（2人）
助手（うち病院籍）	5人（3人）
医員	2人
研修医	3人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	2人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技官（教務職員を含む）	1人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	19人

## 2 教官の異動状況

峯田 周幸（教授）	（H15.5.1～現職）
水田 邦博（助教授）	（H15.11.1～現職）
岩崎 聡（講師）	（H12.12.1～現職）
武林 悟（講師）	（H13.10.1～現職）
名倉三津佳（助手）	（H13.6.1～現職）
渡邊 高弘（助手）	（H10.4.1～現職）
袴田 桂（助手）	（H15.7.1～現職）
大和谷 崇（助手）	（H16.3.1～現職）
大嶋 吾郎（助手）	（H15.7.1～現職）
佐々木 豊（助手）	（H12.3.1～現職 但し留学のためH16.2.1～休職中）
三澤 清（助手）	（H13.4.1～現職 但し留学のためH14.9.1～休職中）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成15年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13編（8編）
そのインパクトファクターの合計	20.41
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	6編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0編（0編）

そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	6編 ( 6編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	4編 ( 4編)
そのインパクトファクターの合計	0

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Takeshita T, Iwasaki S, Nagura M, Watanabe T, Umemura K, Hoshino T : Photochemically induced double lateral wall lesions in the guinea pig cochlea. Acta Oto-Laryngol 123 : 355-361, 2003
2. Iwasaki S, Hayashi Y, Seki A, Nagura M, Hashimoto Y, Oshima G, Hoshino T : A model of two-stage newborn hearing screening with automated auditory brainstem response. International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology 67 (10) : 1099-1104, 2003
3. Watanabe T, Jono H, Han J, Lim DJ, Li JD : Synergistic activation of NF-kappaB by nontypeable Haemophilus influenzae and tumor necrosis factor alpha. Proc Natl Acad Sci USA 101 (10) : 3563-3568, 2004.
4. 大和谷 崇, 名倉三津佳, 岩崎 聡, 星野知之 : 経乳突的手術を行った錐体部真珠腫4症例の長期経過. Otol Jpn 13 (2) : 129-134, 2003.
5. 武林 悟, 佐々木豊, 岩崎 聡, 峯田周幸 : 症例からのアプローチ 耳下腺悪性腫瘍と手術. JOHNS 19 (9) : 1329-1333, 2003.
6. 児玉 章, 細川誠二, 足守直樹 : 一側聴耳が100dB以上の慢性中耳炎に対する鼓室形成術. Otol Jpn 13 : 198-203, 2003.
7. 武林 悟, 岩崎 聡, 峯田周幸 : 特集 実地医家のための検査法 病理診断 生検. JOHNS 20 (3) : 509-512, 2004.
8. 橋本泰幸, 名倉三津佳, 峯田周幸 : 上気道炎に対するレボフロキサシン1日2回投与による臨床効果. 耳鼻と臨床 50 (1) : 24-27, 2004.

インパクトファクターの小計 [12.04]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. Takemoto S, Fukamizu H, Yamanaka K, Nakayama Y, Kora Y, Mineta H : Giant basal cell carcinoma : improvement in the quality of life after extensive resection. Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg 37 (3) : 181-185, 2003.
2. Nair TS, Kozma KE, Hoefling NL, Kommareddi PK, Ueda Y, Gong TW, Lomax MI, Lansford CD, Telian SA, Satar B, Arts HA, El-Kashlan HK, Berryhill WE, Raphael Y, Carey TE : Identification and characterization of choline transporter-like protein 2, an inner ear glycoprotein of 68 and 72 kDa that is the target of antibody-induced hearing loss. J Neurosci 24

(7) : 1772-1779, 2004.

3. 松本浩敬, D.Erdenebat, 桐山伸也, 北澤茂良, 岩崎 聡 : 人工内耳装用者の単音節聴取実験評価. 日本音響学会 529-530, 2003.
4. 永瀬 大, 松井和夫, 竹村栄毅, 窪田哲昭 : 鼓膜癒着を伴う耳手術症例に対する鼻粘膜移植部位の病理組織学的検討. 昭和医学会雑誌 63(2) : 211-221, 2003.
5. 小松正規, 平田佳代子, 持松いづみ, 松井和夫, 廣瀬 肇, 佃 守 : 高齢者における嚙下障害の実態 介護病棟, 特別養護老人ホーム, 一般高齢者での調査. 日気食会報 54(4), 2003.  
インパクトファクターの小計 [8.37]

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 荒井真木, 岩崎 聡, 長井伸子, 名倉三津佳, 峯田周幸 : 当科における耳鳴に対するTRTの現状. Audiology Japan 46; 371-372, 2003
2. 鈴木千香子, 岩崎 聡, 名倉三津佳, 武林 悟, 峯田周幸 : 注意欠損・多動性障害傾向の小児人工内耳効果. Audiology Japan 46; 419-420, 2003
3. 岩崎 聡, 長井伸子, 名倉三津佳, 荒井真木, 竹山昌孝, 峯田周幸 : 雑音負荷音場検査によるデジタル補聴器の評価. Audiology Japan 46; 471-472, 2003
4. 大蝶修司, 岩崎 聡, 荒井真木, 林 泰広, 関 敦郎, 星野知之, 峯田周幸 : 新生児聴覚スクリーニングでのrefer症例の長期経過. Otol Jpn 13(4) : 315, 2003.
5. 岩崎 聡, 名倉三津佳, 橋本泰幸, 渡邊高弘, 大嶋吾郎, 武林 悟, 峯田周幸 : 網膜色素変性症患者における聴覚障害の現状 — 全国アンケート調査結果 —. Otol Jpn 13(4) : 448, 2003.

### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. Dashtseren E, Kiriyama S, Kitazawa S, Iwasaki S : A channel selection by pulse estimation algorithm for cochlear implant system. Autumn meeting of ASJ : 435-436, 2003.

## (3) 総 説

### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

#### (4) 著 書

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 岩崎 聡：補聴器の適応（成人，幼少児，乳児）と検査 — どのような検査をし，補聴器の適応をきめるのか —. すぐに役立つ補聴器装用の実際. 全日本病院出版会 ENTONI 30：8-13, 2003
2. 名倉三津佳，梅村和夫：耳鼻咽喉科疾患，口腔疾患の病態生理と治療薬. 器官別病態生理と治療薬. 橋本久邦 編，じほう：991-1002, 2003.
3. 松井和夫：4. 鼓膜形成術 6) 癒着例への鼻粘膜移植. 村上 泰 編 イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 東京医学社：42, 2003.
4. 松井和夫：頬骨骨折の整復. 村上 泰 編 イラスト手術手技のコツ 耳鼻咽喉科・頭頸部外科. 東京医学社：321-324, 2003.
5. 松井和夫：No.6処置と手術の副損傷 5-頸部 甲状腺・副甲状腺手術. 森山 寛 編 ENT Now耳鼻咽喉科・頭頸部外科処置・手術. メジカルビュー社：132-140, 2003.
6. 松井和夫：ニューロバチエット病について. 追録第37 東京. 六法出版：404, 2003.

##### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

##### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

#### (5) 症例報告

##### A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 袴田 桂，瀧澤義徳，星野知之：3D-CTが診断に有用であった耳小骨病変の2例. 耳鼻咽喉科臨床 96(10)：871-878, 2003.
2. 黄永信理，星野知之，水田邦博，大和谷崇：中耳腺腫の一例. Otol Jpn 13(3)：223-226, 2003.
3. 熊切健一，武林 悟：顔面に巨大血腫を形成した神経繊維腫症例. 耳喉頭頸 75：473-476, 2003.
4. 榎本美紀，大川靖弘，峯田周幸：Ejnell法による声帯外方移動術を施行した両側反回神経麻痺の1症例. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 76(1)：54-57, 2004.

##### B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

##### C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し，共著者が当該教室に所属していたもの

#### 4 特許等の出願状況

	平成15年度
特許取得数（出願中含む）	1件

## 5 医学研究費取得状況

	平成15年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (360万円)
(2) 厚生科学研究費	1件 (180万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	1件 (100万円)
(5) 受託研究または共同研究	1件 (20万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	15件 (2110万円)

### (1) 文部科学省科学研究費

岩崎 聡 (代表者) 基盤研究 (C) 「分子生物学的アプローチによるアッシャー症候群の病態解明」90万円 (継続)

岩崎 聡 (分担者) 基盤研究 (C) 「聴覚末梢系モデルの逆解析法による人工内耳システムの研究」130万円 (継続) 代表者 静大情報学部 北澤茂良

名倉三津佳 (代表者) 若手研究 (B) NF-KB活性化による粘液産生及び繊毛運動の変化を介した中耳炎遷延化機構の解明 140万円 (継続)

### (2) 厚生科学研究費

岩崎 聡 (分担者) 特定疾患対策研究事業 急性高度難聴調査研究班 180万円 (新規) 代表者 東京医科歯科大 喜多村 健

### (4) 財団助成金

岩崎 聡 (代表者) 松下視聴覚教育研究財団 — 第10回松下視聴覚教育助成 — 「Attention deficit hyperactivity disorder (ADHD) : 注意力欠損・多動性障害の高度難聴障害児に対するコンピューター言語訓練システムの活用と評価。」100万円 (新規)

### (5) 受託研究または共同研究

岩崎 聡 (代表者) 人工内耳研究委託費「クラリオン人工内耳における使用成績調査」20万円

## 6 特定研究などの大型プロジェクトの代表, 総括

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	3件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	8件
(6) 一般演題発表数	5件	

(1) 国際学会等開催・参加

5) 一般発表

ポスター発表

1. Iwasaki S, Nagura M, Hashimoto Y, Oshima G : A model of two-stage newborn hearing screening with automated auditory brainstem response. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery (AAO-HNSF 2003 Annual Meeting), September 2003, Orlando, Florida, USA
2. Nagura M, Mizuta K, Iwasaki S, Takebayashi S, Ohshima G, Usui H, Mineta H, Hoshino T : Endothelial dysfunction in elderly patients with idiopathic benign positional vertigo. American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Annual Meeting, September 2003, Orlando, Florida, USA.
3. Dashtseren E., Kitazawa S., Iwasaki S, Kiriyama S. : Comparison of two signal processing strategies using consonant recognition tests. December 2003, 4<sup>th</sup> Asia Pacific Symposium on cochlear implant and related sciences (APSCI). Taipei, Taiwan.
4. Takebayashi S, Mineta H, Nagura M, Misawa K, Araki K, Kodama A : Study of false negative cases of FNA in head and neck tumor. 107th Annual meeting of American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation, September 2003, Orlando (Florida), USA
5. Misawa K, Ueda Y, Kanazawa T, Misawa Y, Takebayashi S, Mineta H, Carey TE : CpG Hypermethylation of Promoter Region and Inactivation of GALR1 in Head and Neck Cancer. 95th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research, March 2004, Orlando (Florida), USA

(2) 国内学会の開催・参加

4) 座長をした学会名

- 峯田周幸 第104回日本耳鼻咽喉科学会（東京）  
峯田周幸 第27回日本頭頸部腫瘍学会（金沢）  
峯田周幸 第51回中部地方部会連合会（新潟）

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 峯田周幸 日本耳鼻咽喉科学会評議員  
峯田周幸 日本頭頸部外科学会評議員  
峯田周幸 日本鼻科学会評議員  
峯田周幸 耳鼻咽喉科感染アレルギー学会評議員  
峯田周幸 日本咽頭口腔学会評議員  
峯田周幸 耳鼻咽喉科臨床学会評議員  
峯田周幸 日本喉頭学会評議員  
岩崎 聡 日本耳鼻咽喉科学会評議員

## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0件	0件

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリー

峯田周幸 1回 Cli Can Res (USA)

峯田周幸 1回 Oral Oncol (Netherland)

峯田周幸 1回 Eur J Cancer (UK)

峯田周幸 1回 Proteomics (UK)

## 9 共同研究の実施状況

	平成15年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	2件
(3) 学内共同研究	0件

### (2) 国内共同研究

北澤茂良（静岡大学情報学部）人工内耳の新しい音声処理方法の開発  
静岡大学 めまい患者の自律神経機能評価

## 10 産学共同研究

	平成15年度
産学共同研究	0件

## 11 受賞

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

### 1. 頭頸部癌における血管新生因子の作用

内因性の血管新生抑制因子の一つであるエンドスタチンの作用について研究した。甲状腺未分化癌細胞株にエンドスタチン遺伝子を導入してiNOSとVEGFの発現量を調べた。するとエンドスタチン遺伝子の導入によってiNOSとVEGFはmRNAや蛋白のレベルで発現が抑制されていた。すなわち、エンドスタチンの作用はiNOSやVEGFの発現を抑制することによって血管新生の抑制をしていると考えられた。

（峯田周幸，武林 悟）

### 2. 頭頸部癌におけるPTEN遺伝子の発現について

腫瘍抑制遺伝子の一つであるPTENはヒト乳頭腫ウイルス関連の癌において、その発現が低下している。今回私たちは、頭頸部癌でPTEN発現を調べた。PTEN発現はp53遺伝子とは相関なく、予後にも反映しなかった。

（峯田周幸，武林 悟）

### 3. 頭頸部扁平上皮癌における18qのLOHと腫瘍進展の関係

常染色体18番長腕（18q）のLOH（Loss of heterozygosity）は頭頸部癌に関係しているが、特に腫瘍進展に関係していることを研究した。頭頸部扁平上皮癌の細胞株のうち、同一ドナーより確立された原発部位と、転移又は再発部位よりの細胞株を用い、それぞれの18qLOHを調べその割合を比較した。原発と、転移又は再発部位のLOHが、両者の間で異なっていた細胞株ペア10組中7組において、転移又は再発部位の細胞株でLOHの割合が高かった。これらのことにより、18qのLOHが頭頸部癌の腫瘍進展に関与していることが示唆された。

（武林 悟，峯田周幸）

### 4. 内耳におけるエンドサイトーシスの役割

LDL receptorであるメガリンが血管条辺縁細胞，前庭暗細胞，内リンパ嚢細胞の頂膜とその直下のエンドサイトーシス小胞に存在することを免疫電顕を用いて研究した。これらの細胞が内リンパから受容体依存性エンドサイトーシスを行っていることを示した。

（水田邦博，橋本泰幸，荒井真木）

### 5. 耳管機能不全の機能検査

耳管機能検査装置を用いて，耳閉感，低音性の耳鳴，ふらふらするめまい，頭重感，首や肩の凝り，耳周囲の違和感などの不定愁訴と耳管機能不全の関係を明らかにした。

（水田邦博，新村久美子）

### 6. アッシャー症候群の遺伝子解析と疫学調査に関する研究

Usher（アッシャー）症候群は網膜色素変性症に難聴を伴う代表疾患であり，眼科と共同して病態解明のための研究を行っている。我々はJRPS（日本網膜色素変性症協会）の協力を得て，日本で初めて疫学全国調査を施行し，我が国における網膜色素変性症の中で聴覚障害の実情を調べた。834名から返答があり，難聴を自覚している方は約30%，何らかの耳症状がある方が42%認められた。また，現在遺伝子変異の有無を解析中である。

（岩崎 聡，名倉三津佳，橋本泰幸，堀田喜裕<sup>1</sup>，丸山友香<sup>1</sup>）<sup>1</sup>眼科

### 7. 人工内耳の新しい音声コード化法の開発と評価

聴覚系の精密な周波数・時間分解能に比べて人工内耳は20前後の周波数帯域とミリ秒単位の時間精度に限定された枠内で音響信号の情報圧縮を行っており，人工内耳の音声・音響信号処理は周波数・時間的に極めて限定された条件下で最大限に効率的な情報伝達方式を見出す必要がある。我々は静岡大学情報学部の北澤茂良先生が着想された最適電極選択・パルス配置のアルゴリズムの独創的な刺激方法の実用性を評価するため，疑似聴取音を再現する実時間処理音響シミュレーションによる聴取テストを施行し，一定の成果が得られた。今後人工内耳装用者による聴取実験で実証することを目指している。

（岩崎 聡，鈴木千香子，長井伸子，北澤茂良<sup>1</sup>，Dashtseren Erdenebat<sup>1</sup>）<sup>1</sup>静岡大学情報学部

8. 中耳炎の重症化，遷延化の機序に関する研究

分子生物学的手法を用いてin vitroおよびin vivoにおいて中耳炎が重症化する機構について研究する。インフルエンザ桿菌や肺炎球菌感染に伴って産生される炎症性サイトカインがいかなるシグナル伝達系路を経て，NF- $\kappa$ BやAP-1などの転写因子を活性化させるのかを研究している。

(渡邊高広)

13 この期間中の特筆すべき業績，新技術の開発

14 研究の独創性，国際性，継続性，応用性

15 新聞，雑誌等による報道